



5月27日（木）に実施された全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。本校では、調査結果を基に、授業改善推進プランを作成し、それを基に授業を改善してまいります。（授業改善推進プラン全体計画は、学校のホームページに掲載しております。そちらもご覧ください。）

全国学力・学習状況調査（6年）の結果について

1 学力・学習状況調査 集計結果 各教科平均正答率の比較（％）

	国語	算数
南田中小学校	66.0	77.0
東京都公立校小学校	68.0	74.0
全国公立小学校	64.7	70.2

2 分類・区別集計結果

(1) 国語

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)		
			南田中小	東京(公立)	全校(公立)
全体		14	66	68	64.7
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.3	69.9	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	84.0	81.8
B 書くこと		2	63.5	62.7	60.7
C 読むこと		3	50.7	53.5	47.2
評価の観点	知識・技能	6	65.3	69.9	68.3
	思考・判断・表現	8	66.4	66.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	76.0	75.6	71.7
	短答式	3	66.7	71.3	70.6
	記述式	3	38.2	44.2	40.2

○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の内容で、都や全国の平均値を上回っています。

特に「目的に応じ、話の内容を明確になるようにスピーチの構成を考える」問題の平均正答率は、東京都より8.7%、全国より12.1%高い結果となりました。

→ 国語の授業はもちろん、様々な学習で自分が考えたことを発表する活動を、学校全体で取り組んできた成果が出ていると、考えられます。今後もこれらの活動を充実させていきます。

△ 「読むこと」は、都の平均値を約3%下回っています。特に、「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」問題の平均正答率は、東京都と全国、どちらの平均正答率よりも低くなりました。また、「記述式」で答える問題では、平均正答率が、東京都より6%、全国より2%低い結果となりました

→ 国語の授業では、段落ごとに要約や、小見出しをつける活動等で、物語文や説明文を読み取る力を育成していきます。また、記述力を向上させるために、自分の考えを明確にして意見文を書く活動を取り入れることで、書く能力を向上させていきます。その他の教科でも、自分の考えを書く活動や、新聞作りを通して、書く力を身に付けさせていきます。

(2) 算数

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)		
			南田中小	東京都(公立)	全国(公立)
全体		16	77	74	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	73.4	65.4	63.1
	B 図形	3	66.0	63.7	57.9
	C 測定	3	78.5	77.7	74.8
	C 変化と関係	3	84.7	79.8	75.9
	D データの活用	5	78.3	79.5	76.0
評価の観点	知識・技能	9	80.3	78.0	74.1
	思考・判断・表現	7	72.0	68.3	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	78.8	80.1	76.0
	短答式	6	84.0	79.1	75.8
	記述式	4	62.5	56.2	53.0

○ ほとんどの領域・観点を都や全国の前年を上回っています。

「数と計算」の平均正答率は、東京都より8%、全国より10.3%上回りました。特に「商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係をとらえて除法の式に表し、計算することができる」ことを問う問題では、東京都よりも10.6%、全国より15.3%も高い平均正答率でした。

→ 本校では、全学年の算数の授業で、習熟度別授業を実施しています。1・3・4・5・6年生は2学級3展開、2年生は3学級4展開の授業形態です。習熟度でグループ編成をすることで、個に応じた指導を実施し、基礎・基本を確実に定着させる学習を重視してきた成果だと考えられます。

△ 「データの活用」の領域の平均正答率は、東京都より1.2%低くなりました。「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる」ことを問う問題の平均正答率は、東京都より7.1%、全国より3.1%下回りました。題意を読み取り、適切な答えを選択する力に課題が見られます。

→ 低学年では絵や図、中学年では棒グラフ・折れ線グラフ、高学年では帯グラフ・円グラフ・柱状グラフを用いて、統計的な問題解決型の学習を積み重ねていきます。このことから、身の回りの事象をデータから捉え、問題解決に生かす力、データを多面的に把握し、事象を批判的に考察する力の育成を目指していきます。

(3) 児童質問紙による意識調査より

いくつか顕著なものをお知らせいたします。質問事項に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合を%で表しています。

質問事項	南田中小	東京都(公立)	全国(公立)
自分には良いところがあると思う。	45.8	38.0	36.2
将来の夢や目標をもっている	64.6	57.1	60.2
人が困っているときは、すすんで助けている。	37.5	40.8	43.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	66.7	81.4	84.1
人の役に立つ人間になりたいと思う。	62.5	72.9	75.4
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。	37.5	27.7	26.6
友達と協力するのは楽しいと思う。	58.3	69.8	72.0
新聞を読んでいる	10.4	8.3	5.1
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。	20.8	18.6	17.8

体力向上を図るための調査（1～6年生）の結果について

1 体力合計点の平均比較（実施月 6月）

学年	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
南田中小	27.8	30.6	37.5	39.3	44.0	44.4	45.2	43.8	54.4	55.9	57.4	59.8
練馬区	28.9	28.7	35.3	35.8	41.2	41.9	46.8	47.5	52.5	54.2	58.6	59.8

※ 網掛けの部分は、練馬区の平均と比較し、本校の合計点平均が同等、もしくは上回った学年です。

2 測定種目の平均比較

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
握力(kg)	9.1	9.1	11.6	10.8	13.9	13.3	15.4	13.4	16.4	17.2	19.9	20.1
区平均	8.9	8.3	10.5	9.9	12.4	11.8	14.1	13.5	16.2	16.2	19.2	19.1
上体起こし(回)	12.2	12.6	14.1	12.4	17.1	15.5	15.9	13.9	18.8	18.0	19.3	20.9
区平均	11.2	10.9	13.1	13.0	15.4	15.1	17.2	16.4	19.0	18.0	20.9	19.3
長座体前屈(cm)	24.1	26.5	28.6	31.5	29.1	34.7	27.5	36.6	31.3	37.8	34.3	39.3
区平均	25.0	27.2	26.6	29.6	29.4	33.4	31.2	35.5	33.7	38.3	35.7	41.1
反復横跳び(回)	22.1	22.2	28.9	30.2	34.1	33.1	36.0	32.4	43.0	40.8	46.4	41.7
区平均	26.4	25.5	29.0	28.1	32.4	30.4	36.4	34.7	40.2	38.7	43.3	41.3
20mシャトルラン(回)	18.0	15.8	29.2	27.0	32.3	24.3	39.0	26.0	54.1	41.0	46.9	38.5
区平均	18.0	14.8	25.0	19.1	32.1	23.7	38.7	28.7	46.0	35.8	54.1	40.8
50m走(秒)	11.7	11.8	10.6	11.1	9.9	10.4	10.3	10.5	9.1	9.5	8.9	9.3
区平均	11.5	11.8	10.6	10.9	10.1	10.4	9.6	9.9	9.3	9.5	8.8	9.1
立ち幅跳び(cm)	108.6	107.2	120.2	113.7	131.6	125.0	137.4	121.7	154.1	150.3	161.9	155.3
区平均	110.6	103.0	123.4	115.8	135.0	126.7	142.6	134.6	152.2	145.4	163.4	154.2
ソフトボール投げ(m)	7.2	6.2	10.8	7.3	13.5	9.0	14.9	10.4	19.9	11.8	20.9	14.4
区平均	7.1	5.0	9.9	6.7	13.5	8.4	16.8	10.6	19.8	12.4	23.5	14.3

※ 網掛けの部分は、測定種目の平均を練馬区の平均と比較し、本校が同等、もしくは上回った種目です。

3 全体的な特徴と本校の取組

握力と20mシャトルラン、ソフトボール投げは、多くの学年が区の平均を上回りました。昨年度の課題となっていた、動きを持続する能力（20mシャトルラン）と遠くまで投げる力（ソフトボール投げ）が区の平均を上回ることができたのは、校庭を自分のペースで走り続ける「持久走旬間」や、全校同じカードを使用して意欲を高めながら取り組む「縄跳び旬間」の実施、また体力テスト前に、遠くまで投げる投げ方を意識しての練習といった学校全体での取組の成果が出てきていると考えています。

今後も、これらの活動は取り入れつつ、課題である体の柔軟性（長座体前屈）や、すばやく移動する能力（50m走）、瞬発力（立ち幅跳び）を向上できるように、体育の授業改善に取り組んでまいります。